

青天白雲塾

「青天白雲塾」の対象および目的

◆ **対象** 大手企業 経営幹部を嘱望されているミドルマネジメント層のみなさま

□ **目的** 数百年単位で歴史を見わたすと、現在が大きな転換点に立っていることが見えてきます。あらゆる分野における自然科学の制覇、主権国家を凌駕するようなプラットフォームの出現、期待と不安の源泉である人工知能（AI）の台頭、近代の理念（自由・平等・友愛）の無効を宣告するような権威主義国家の出現、先進国で進む民主主義の自信喪失とポピュリズム、そして主権国家と国際関係の理念を破壊する侵略戦争。世界と日本と自社の今後を領導する存在になると期待されているみなさまに、自己啓発的な通り一遍の知識・教養を超えて、文明の根源的な課題をリベラルアーツ（人文知）から汲みとり、危機を打開する知的資源を整えていただきます。

2024年度 募集概要

研修期間	2024年6月～12月のうち、約7か月 (講座日数10日程度 / 基本的に平日の10時から17時)
受講対象	大手企業 経営幹部を嘱望されているミドルマネジメント層のみなさま 各社4名以上～8名以内。定員は40名程度
申込受付期間	第一次募集締め切り…2024年2月末日 第二次募集締め切り…2024年4月末日
お問い合わせ先	office@fushikian.jp 電話：03-3292-0320 「青天白雲塾」担当

青天白雲塾の狙い

総花的カリキュラムではなく、AI、サブカルなどを対象領域とし、企業人が実感する現代文明の変容、経営環境の変化に対し、リベラルアーツの諸概念を参照しつつ、その根源にある課題に迫る

リベラルアーツの諸領域

歴史
宗教
政治経済
古典思想
現代思想
サブカル
科学

青天白雲塾の対象領域

歴史
宗教
政治経済
古典思想
現代思想
サブカル
科学

2024年度講座 3つの特徴

1 テーマの異なる二部構成

- 受講者世代が興味関心を持つテーマを重点的に取り入れ、「リベラルアーツ」と「現代社会の接点」を感じられる構成に変更
- 第一部は「AIと人間」、第二部は「サブカルと現代思想」



2 実践型AIワークショップを導入

- 第1部「AIと人間」で、ChatGPTなど生成AIの演習を実施する
- 演習で体得するスキルを活かし、「AIを活用したプレゼンテーション」をチームごとに発表

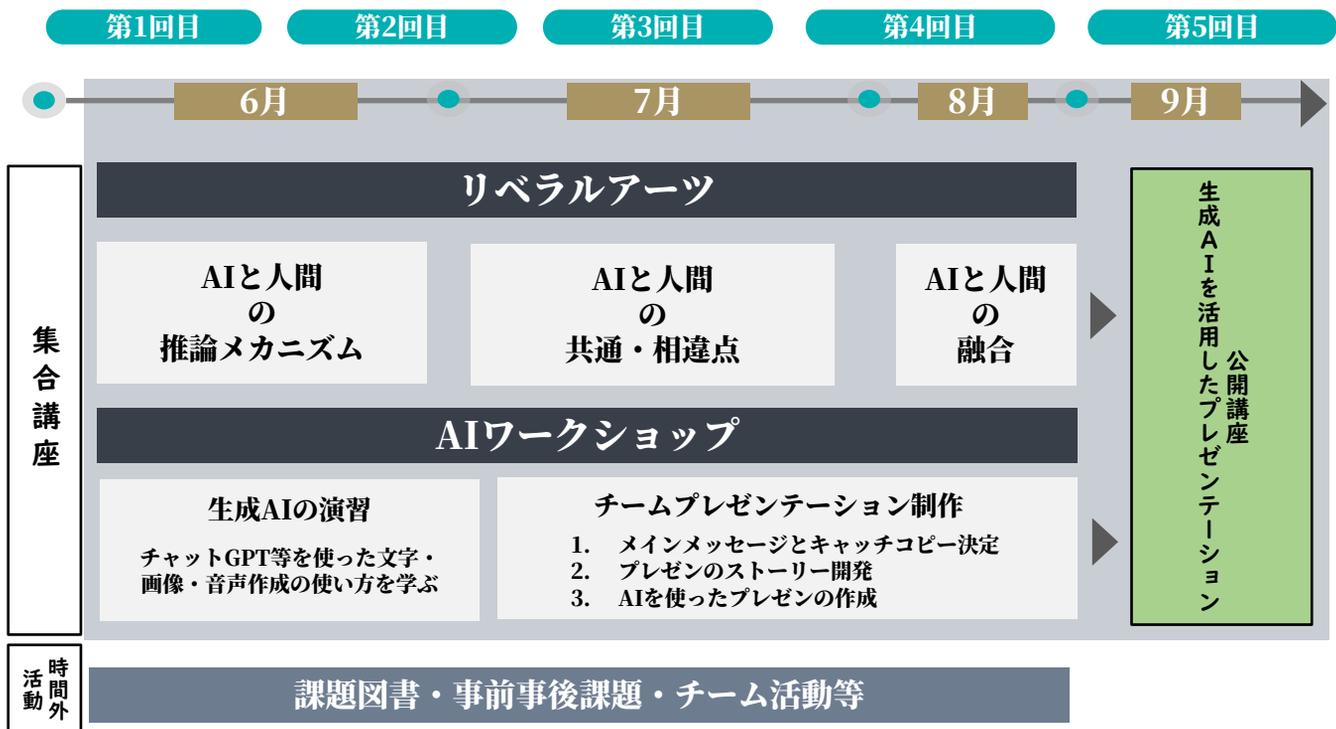


3 TA（ティーチングアシスタント）制を導入

- チームごとの発表をサポートするためのアシスタントを導入
- 生成AIの使い方の指導に留まらず、ビジネス面や資料構成についてのアドバイスを実施



第一部構成・スケジュール



第一部「AIと人間」の狙い

AIは現代企業人にとって避けては通れないテーマ

- 経営課題は業界により様々だが、AIによるビジネスインパクトはあらゆる業界共通のテーマとなりえる。
- AIは部署を選ばない。AIは、業務の生産性改善だけでなく商品開発やR&Dといった価値創造の分野にまで及ぶ。



「自然言語を扱うAI」と「人間の言語」の共通点・異なる点を考える

- ChatGPTなどはプログラミングが必要なく、自然言語で指示できる。もはや、相手が人間なのかAIなのか見分けがつかない可能性すらある。
- 本講座では、「AI」と「人間の言語」の基礎的なメカニズムを学ぶことで、AIが隆盛する時代に「人間とは何か？」という命題に立ち戻りたい。



第二部構成・スケジュール



第二部『サブカルと現代思想』

サブカルに含まれる深淵なテーマを汲み取る

- 経済が失速する中で、日本のサブカルは世界的にも評価が高い。
- その背景には、日本のサブカルが単なる娯楽作に留まらず、深い哲学的テーマや倫理的な問いを探求している作品が多いことがある。

『虐殺器官』 ～残虐性とは何か？～

- ホロコーストなどの悲惨な歴史は、人間が真理を追究するほどに正義の名の下に残虐性が現れる可能性を示唆している。
- 『虐殺器官』はこのテーマに真正面に向き合っている。
- これに合わせて、プラグマティズム思想を読むことで、「残酷さの回避」する正しい「言葉遣い」の可能性について学ぶ。

『風の谷のナウシカ』 ～自分の境界を越え、交響する～

- 娯楽作には“弱い者が強い者を倒す”といった単純な二項対立が多いが、ナウシカは対立軸をことごとく、脱構築する。ナウシカは、風の谷のためだけには戦わない。敵も味方も、ムシも化け物も仲間にしていく。ナウシカは、自分の境界を作らず、異質な外部を取り込み続ける。
- この漫画に合わせて、社会学の名著を読むことで、“1つの方向に収束せず、常に自分を解放する感性”について学ぶ。